

普及活動情勢報告（令和5年7月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

農薬のラベル表示は必ず確認しましょう

～みどり市直販部・農薬安全使用講習会～



初心者からベテランまで幅広い層が参加

6月22日および7月4日に高西地区農協会館、幡多地区旧大正支所において、JA高知県みどり市直販部の部会員のべ92名を対象とした研修会を実施しました。

研修会では、種苗会社による秋播き野菜の栽培講習、JA担当者による広域産直システムへの切替え説明が行われました。

普及所からは、農薬使用の遵守事項、作物分類やラベル表示など、園芸品目を中心に農薬の安全使用について説明しました。

生産者からは、「防除履歴の保存期間はどれくらい？」「空き容器の処分はどうしたらよい？」など多くの質問がありました。

直販部には栽培経験が浅い生産者もいることから、普及所ではJAと協力し、農薬の適正使用について周知を続けていきます。

シシトウの生育状況はどうだろう？

～JA高知県四万十シシトウ研究会アドバイザー巡回～



AD巡回の様子

7月11日、JA高知県四万十シシトウ研究会がアドバイザー（以下、AD）巡回を行い、研究会員のほ場15か所を巡回し17名が参加しました。各ほ場では、ADである研究会長と参加した会員同士で、生育状況や栽培管理について活発な意見交換が行われました。

普及所からは、非辛み品種である高育交15号の情報提供や熱中症予防の呼びかけを行いました。

参加者からは「かん水はとても大事、毎日行っている」「非辛みの品種は枝が伸びている」「実の形は詰めやすくていい」「8時までに収穫は終わらせて、暑い日中に作業はしない」といった声が聞かれました。

普及所は、今後もシシトウの安定生産に向けて支援していきます。

水稻の穂肥はできるかな？

～JA高知県四万十酒米生産部会穂肥現地検討会～



現地検討会の様子

7月12日、JA高知県四万十酒米生産部会の穂肥現地検討会が開催され、生産者10名が参加しました。

検討会では参加者全員のほ場を巡回し、普及所からは穂肥の目的や施用時期、病虫害防除について説明しました。

生産者からは、「近年、落等の主な要因となっている充実不足対策として、穂肥が重要であることが分かった」「斑点米を生じさせるカメムシ類の防除は、薬剤防除だけでなく、水田周辺の畦畔や農道の除草も重要であることが理解できた」といった声が聞かれ、活発な意見交換が行われました。

普及所は、今後も管内の高品質酒米生産を支援していきます。

みんなで意識しよう！有機ショウガのリスク管理 ～しまんと畑生産者会 現地検討会～



リスク管理シート活用の試行

7月13日、四万十町の有機農業者で構成される「しまんと畑生産者会」のショウガ現地検討会が開かれ、慣行栽培の農業者1名を含む8名が参加しました。

有機ほ場では、一度土壌病害が発生すると対処が非常に困難になることから、普及所が令和5年3月に提案した青枯病リスク管理シートにより、参加者全員で各ほ場や農業者の取組を確認しました。

あるほ場では、病害を防ぐためあえてショウガを植えない場所を作っており、参加者はリスク管理の重要性を改めて意識していました。

次回は10月の予定で、普及所は、今後も有機栽培の生産安定に向けて、農業者の活動を支援していきます。

積極的な部会活動へ向けて ～JA高知県四万十ニラ部会青壮年部会 現地検討会・総会～



現地検討会の様子

7月13日、JA高知県四万十ニラ部会青壮年部会の現地検討会と総会が開催され、生産者18名が参加しました。

現地検討会では、昨年度比較試験をした品種を栽培しているほ場でも意見交換を行い、普及所からは、昨年度の試験結果について説明をおこないました。

生産者からは、「1本が太くてネギみたい」「そぐり作業は簡単か？」など様々な意見が出され、試験品種に対する関心の高さが感じられました。

普及所は、今後も関係機関と連携し、高品質なニラの生産に向けて取り組んでいきます。